

広 報 資 料



京都市が賛同する  
「シトラスリボンプロジェクト」にちなんだ  
「シトラスメッセージ」を大募集！！

令和 3 年 7 月 9 日

京 都 市 文 化 市 民 局

〔 担 当 共 生 社 会 推 進 室 〕

〔 電 話 3 6 6 - 0 3 2 2 〕

## ～コロナをみんなで乗り越えよう～ シトラスメッセージの募集について

新型コロナウイルス感染症により、私たちの生活は大きく変わりました。先の見えない不安によって生まれる心無い言動は、人を傷付け、感染拡大防止の妨げにもなります。

この度、京都市では、思いやりを大切に、新型コロナウイルス感染症拡大を皆で乗り越える気持ちを込めたメッセージを募集します。「日々の暮らしを支えるエッセンシャルワーカーの方へ」「感染した方へ」「頑張っているあなたや私へ」・・・応援と感謝のメッセージを送りませんか？

応募作品は、本市の広報物や啓発物品に掲載するなど、広く活用いたしますので、たくさんの御応募をお待ちしております。

### 記

#### 1 募集内容

新型コロナウイルス感染症拡大を皆で乗り越えるための思いやりの気持ちを込めたメッセージ（キャッチコピー、標語、川柳、創作熟語等、形式は問いません。）

##### 例（自由に作成可）

以下の方に向けたメッセージやエール

- ・ 新型コロナウイルスに感染した方へ
- ・ 医療に携わる方へ
- ・ 日々の暮らしを支えるエッセンシャルワーカーの方へ
- ・ 感染対策を頑張るあなたや私へ
- ・ マスクが着けられない、ワクチン接種ができないなど、様々な配慮が必要な方へ
- ・ 家族や友人へ

（コロナ禍で周りの人や地域とのつながりの大切さを感じたこと、テレワーク等により自分が家で過ごして感じたこと、家で過ごす時間が増えた家族を見て感じたこと、友人との関わりの変化など）

キャッチコピーから川柳まで、なんでもOKです！！  
メッセージやエールをお届けください。

#### 2 応募資格

どなたでも御応募いただけます。

#### 3 文字数

川 柳：五・七・五

川柳以外：70文字を目安に自由に作成してください。

#### 4 募集期間

令和3年7月9日（金）から同年9月10日（金）まで

（当日消印有効。申込みフォーム、メールの場合は同日午後11時59分まで）

## 5 応募方法等

### (1) 応募方法

E メール、京都市情報館の申込みフォーム、FAX 又は郵送

### (2) 記載事項

以下の①～⑥の内容をメール本文やはがき等に記載のうえ送付してください。

(①メッセージ, ②氏名 (ニックネーム可), ③氏名の公表の可否, ④年代 (任意), ⑤職業 (任意), ⑥お住まいの市町村 (任意))

### (3) 応募先

<E メール> [humanrights@city.kyoto.lg.jp](mailto:humanrights@city.kyoto.lg.jp)

<申込みフォーム> <https://www.city.kyoto.lg.jp/bunshi/page/0000285336.html>

<F A X>075-366-0139

<郵 送>〒604-8101 京都市中京区柳馬場通御池下る柳八幡町 65  
京都朝日ビル 8 階 京都市文化市民局 共生社会推進室  
人権文化推進担当「シトラスメッセージ」担当

### (4) 注意事項

ア 応募点数の制限はありません。

イ 応募作品は、返却しません。

ウ 応募作品は、未発表のオリジナル作品とします。

エ 応募作品の著作権は作者に帰属しますが、京都市が啓発の目的で広報、展示、印刷物、ホームページ、公式 SNS 等に掲載する場合において、作者はその応募作品の利用に関し許諾するものとします。

## 6 作品使用

いただいたメッセージは、随時、京都市情報館や共生社会推進室公式 SNS 等により発信する予定です。

### \* シトラスリボンプロジェクトとは・・・



Citrus  
Ribbon  
PROJECT

コロナ禍の下で生まれた差別や偏見を耳にされた愛媛の有志「ちょびっと 19+」が始められたプロジェクト。愛媛の特産品である柑橘にちなんで、シトラス色（黄緑色）のリボンを身に着け、新型コロナウイルスに感染された方や医療に携わる方などに寄り添い、相手を思いやる気持ちを表すことで、ひいては新型コロナウイルスの感染拡大防止にもつながる活動です。

京都市は、シトラスリボンプロジェクトに賛同しています。感染が確認された方、私たちの暮らしを守り、支えてくれる方（医療従事者・「エッセンシャルワーカー」の皆様など）が、それぞれの暮らしの場で「ただいま」「おかえり」と言い合えるまちになるよう、思いやりの心を広げていきましょう。